

目次

CONTENTS

- 土佐の文化財「文殊菩薩獅子座」…………… P1
- 随想「新資料館等の整備とまちづくりによせて」…………… P2
- NEWS「新資料館」「新図書館等複合施設」…………… P2
- 会員紹介「大方あかつき館」「高知県立美術館」
「津野町立図書館」「横山隆一記念まんが館」…………… P3
- 特集：メモリアルイヤー
「野中兼山」「樋口真吉」「寺田寅彦」「正延正俊」…………… P4

- 展覧会レポート「四国霊場開創1200年記念
「空海の足音 四国へんろ展」を見学して」…………… P5
- 活動報告…………… P6
- 時の話題「国内最高齢グラントシマウマ死去」…………… P6
- コラム「災害に備え、文化財の減災を考える」…………… P7
- 図書之窗『アーカイブ立国宣言』…………… P7
- 会員一覧…………… P8



土佐の文化財

◀文殊菩薩獅子座
平安時代 国重要文化財 木造
高さ（足下から頭頂まで）74.5cm
竹林寺所蔵（高知県高知市）

◆文殊菩薩獅子座

平成26（2014）年、竹林寺では50年に一度の本尊文殊菩薩のご開帳の正当年を迎え、春秋二期計2ヶ月にわたりご開帳行事を執り行いました。

竹林寺の本尊文殊菩薩は神亀元（724）年、当寺を開創した僧・行基により謹刻された霊像と伝えられ、4人の侍者を従えた文殊五尊像形式の中ではわが国最古の作例とされ5体とも国重要文化財に指定されています。

文殊菩薩は獅子に騎乗する姿をとり、当寺の文殊菩薩像はこれまで江戸時代中期に造られた獅子座に載っていました。秋のご開帳ではおよそ300年ぶりに本尊造頭とともに造られたこの獅子座に騎乗し開帳されました。

楠の一枚から彫成されたこの獅子座は大きな目に小さな耳、大きく開いた口と、簡素ながらもことごとくユーモラスなつくりとなっていています。獅子、すなわちライオンのことなど知る術もなかった1200年前の日本人の豊かな想像力が伝わってきます。

なお、この獅子座はこの度のご開帳を機に秘仏の本尊とともに本堂厨子内で祀られ、今後ご覧いただけるのは次回ご開帳時の2064年となります。（竹林寺宝物館 海老塚和秀）

新資料館等の整備とまちづくりによせて

高知県立文学館
館長 元吉喜志男

県都・高知市は、400年以上も前、山内一豊が大高坂山（高知城）を中心に本格的な市街地形成の建設に取り組んだのがはじまりであり、城下町としての都市的性格を持っています。

このまちは、お城を中心とする郭中、東は湊町兼商人の町としての下町、西は武家に使われる人達が多く住み住み後には水通町など各種の職人も市機能も考慮されたまちとして整備されてきました。

特に、郭中は追手筋・北門筋など「筋」と呼ばれる東西の道と、大橋通り・中ノ橋通りなど「通り」と呼ばれる南北の道で整然と町割（都市計画）され、鍵道や袋小路も少なく、その後の高知市中心部の近代道路の骨格となっています。

現在、この郭中の中心点ともいえる場所に「新資料館」、その少し東には「新図書館」の建設計画が進んでいます。山内家資料の保存・継承や近代史研究の拠点などをミッションに掲げる新資料館。県と高知市合同の知恵を結集して全国的にも注目されている新図書館。県都の中心部での二つの施設整備計画に関して、都市の全体機能との関係から

様々な意見もあつたところですが、それでも計画が決定し、現実には整備が進んでいるこの機に、県都の将来を見据えた都市機能について考えるという視点も大切ではないかと思われまます。大きなインパクトを有する施設の整備においては、単にある地点に新たな施設が誕生するというだけではなく、都市の全体的な機能にどう影響するかの意味を持つのか、あるいは持たせるのかという視点が極めて重要だと思われるからです。

城下町建設時、城下経営の基本となる町筋と意識して整備された本町界隈は、400年経った今でも官庁街やビジネス機能を有した心臓部的な場所です。近年、まちの発展軸が東部にシフトしつつありますが、既存の都市機能の集積、昼間の人の数や交通の基幹軸等を考えると、城下町の構造を基盤にした都市フレームの中心的エリアであることに変わりはありません。人の集積や動線との関係、周辺の他の都市機能との連携といった都市全体への波及効果等を様々な角度から検討し、中長期の視点に立って魅力と活力ある都市づくりに寄与させることが大切ではないかと思えます。その際、人口動向、昼間と夜間人口、高齢化・少子化の

進行、交通手段、水辺や緑といった空間環境、近隣商店街等々の具体的な実態を念頭に置くこと。今後の財政制約等も見据えた都市全体の経営コストの効率化なども包含して考えることなどが必要かと思われまます。

「新資料館基本構想」を読ましていただくと、基本理念の5番目に「まちづくりなど地域振興」の視点が掲げられています。これが具体的にどのような形で実践展開されるのか期待されるところです。

400年以上も前、まちづくりに携わった先人たちは、河内山城という名称や、郭中でも中島町・八軒町・片町といった地名などからも、洪水問題など立ち塞がる難題と対峙しながら、都市の全体機能を考え、城下町建設に英知を絞って取り組んできたことが推察できます。

今、城下町最大のランドマークたる高知城の麓で、その山内家にまつわる新資料館等の整備に際し、次の世代にどんな魅力と活力あるまちを演出していただけるのか。ハードの計画にどれだけのソフトの意味を持たし得るのか。

県都の都市づくりの本気度が試されている時なのかもしれません。

NEWS

●新資料館

高知城麓の高知財務事務所跡地に整備を進めている新資料館の建築工事が、平成26（2014）年7月に着工しました。工事は当初の計画通り順調に進んでおり、12月には新資料館の正式名称を『高知県立高知城歴史博物館』とすることが決定しました。開館は平成29（2017）年春を予定しています。これに伴い土佐山内家宝物資料館では、新館の核となる山内家資料などの移転準備のため、平成27（2015）年度から展示室を閉室し、資料貸出・閲覧の一部を制限します。詳細は同館までお問い合わせください。

（土佐山内家宝物資料館 田井東浩平）

●新図書館等複合施設

平成26（2014）年8月から、高知市立追手前小学校跡地において、新図書館等複合施設の建築工事を進めています。平成29（2017）年の開館（予定）に先立ち、県立図書館と高知市民図書館では、平成27（2015）年6月に両館の情報システムの統合を予定しており、両館の資料がかわせて貸出／予約・受取りできるなど、たいへん便利になります。システム統合後も、引き続き使用できる共通利用カードへの更新をお願いします（従来のカードは6月以降使えません）。

（高知県立図書館 上岡真土）

大方あかつき館（上林暁文学館）

大方あかつき館は、平成10（1998）年にオープン。白砂青松の景勝地・入野松原の中にある白亜の館です。上林暁文学館、町立図書館、レクチャーホール、町民ギャラリーなどからなる文化複合施設です。

「いつでも・どこでも・だれでも」をコンセプトに、気軽に学ぶことのできる町民の生涯学習の場として活用されています。また、町内外からの風を受けてまちの文化が生まれ、発信するセンターにもなっています。

2階文学館には、郷土が生んだ私小説作家・上林暁の写真・原稿をはじめ、著書やゆかりの品々が展示された常設展コーナーと企画展コーナーがあります。隣接する公園内には、川端康成揮毫の「上林暁生誕の地」の碑や「地に散つてゐる花を 美しいとおもふ」の文学碑も建てられています。

5月、砂浜はTシャツアート展・はだしマラソンでにぎわいます。11月、らつきょうの花咲く中で、潮風のキルト展も開かれます。

海では、一年中サーフィンに興ずる若者たちの声が聞こえ、しばしば沖のニタリクジラも顔をのぞかせてくれます。あなたと、ここで出会えたら素敵です！

（大方あかつき館／上林暁文学館 山沖幸喜）



高知県立美術館

高知県立美術館は、平成5（1993）年11月に高知市高須に開館しました。蔵を思わせる外観には、土佐漆喰や多数の水切り瓦を用いるなど、高知の伝統建築をその意匠に取り入れています。シャガールや郷土作家などを紹介するコレクション展や年間約4本の特別展はじめ、併設の能楽堂を備えた美術館ホールでは、様々な舞台公演、映画上映などのイベントも開催し、芸術文化の発信地として、文化活動の拠点となる運営を行っています。

平成24（2012）年（平成16年より継続）、高知県ゆかりの写真家・石元泰博氏の約3万5千枚のプリント、約15万枚のフィルムや関連資料などが当館コレクションに仲間入りしました。これをうけ、平成25（2013）年にこれらを調査・研究する「石元泰博フォトセンター」を学芸課内に設置し、平成26（2014）年に2階一部を改修し、「石元泰博展示室」を開室しました。また、展示室前は、壁面いっぱい白い書棚を配置した「アート情報コーナー」へと生まれ変わりました。

当館は、今年開館22年を迎えます。この真っ白な空間のように、気持ちも新たに、県民の皆さまにアートを楽しんでいただける事業展開を継続していきます。

（高知県立美術館／石元泰博フォトセンター 影山千夏）



会 員 紹 介

津野町立図書館かわつそ館／津野町立図書館虎太郎館

津野町立図書館かわつそ館は、平成25（2013）年、町内はじめての図書館として誕生しました。この図書館は、旧保育園を改修し、床や書架などの大部分に県産材を使用しています。また、「おやこ読書室」や「授乳室」など親子利用にも配慮し、児童書や健康・医療などの暮らしの分野も充実しています。広い施設を有効活用し、個別に読書や勉強のできる「学習室」や、3世代交流施設も併設しています。

翌平成26（2014）年には、津野町役場西庁舎の空きスペースを改修し、津野町立図書館虎太郎館が2館目の図書館として開館しました。虎太郎館は、郷土史や地場産業の農林業、特産のお茶に関する図書も充実させていきます。

今後、両館で計画的に5万冊以上整備し、イベントや行事を展開しながら「津野町の情報庫」「本との出会いの場」「子どもの読書を育てること」を基本理念に取り組んでいきたいと考えています。

（津野町教育委員会 橋田佐智）



横山隆一記念まんが館

横山隆一記念まんが館は、まんが家として初めて文化功労者となった高知市出身のまんが家・横山隆一を顕彰する施設として、平成14（2002）年4月、ホール、ギャラリー、公民館を併せ持つ複合文化施設「高知市文化プラザかるぼーと」の中に開館しました。

常設展示の「横山隆一展示室」では、4コマまんが「フクちゃん」をはじめ、油彩画、切り絵、アニメなど、横山隆一の多彩な作品群を展示すると同時に、アトリエやホームバーも再現しており、その人柄にも触れられる構成になっています。併設する「まんがライブラリー」では、高知出身まんが家作品や、日本まんが史に残る名作、美術書、まんがの描き方の指南書など、約13000冊を無料で公開しています。

館では、年間4〜6回の企画展のほか、様々な事業を実施しています。平成26（2014）年度には、10回の節目を迎えた「まんがの日記念・4コマまんが大賞」の記念誌を発行したほか、隆一作品の再発信を目指し「横山隆一のフクちゃん365日+1」も出版しました。

今後も、高知のまんが文化の拠点として活動を続けていきます。

（横山隆一記念まんが館 奥田奈々美）



野中兼山 生誕400年

土佐藩奉行職として大規模な土木工事や産業開発を推し進め、土佐藩・高知県の基盤を築いた野中兼山（1615〜1664）。生誕400年に当たる本年は、兼山ゆかりの各地域で記念イベントが開催されます。

「行当の切抜」や「新川の落とし」があり、娘の婉が建立した墓も残る高知市では、「兼山生誕400年記念事業」として、6月13日には墓前祭、9月12日には高知市春野文化ホール「ピアステージ」にて、記念式典及び記念講演会が予定されています。「山田堰」や「お婉堂」があり、兼山終焉の地でもある香美市では、兼山ゆかりの地を巡る史跡ツアーが。また、「河戸の堰」が、兼山没後に遺族が幽閉された地でもある宿毛市では、宿毛歴史館での関連企画展が計画されています。



高知県立図書館での野中兼山
関連展示（1月〜3月）

兼山が領主を務め、実母の秋田氏や娘の墓も残る本山町では、9月27日に大原富枝文学館で関連の文学講座として、大原富枝の代表作である『婉という女』の輪読や、土佐山内家宝物資料館の渡部淳館長による、野中兼山に関する講演会が開かれる予定です。

なお、詳細については、各自自治体にご確認ください。

（高知県立図書館 渡邊哲哉）

樋口真吉 生誕200年



樋口真吉肖像写真

樋口真吉という名前を知っていますか？今から200年前、幡多郡中村（現・四万十市）に生まれた「坂本龍馬の師」ともいえる人物です。

真吉は、19歳の頃より学問を志し、その後諸国をまわって剣術（大石流）や砲術を学びました。相当な知識人・情報通であり、帰郷後に開いた塾には多くの門弟が集まったそうです。龍馬とは嘉永3（1850）年の四万十川改修工事でお会いしました。その後は長崎でジョン万次郎と対面、江戸で佐久間象山に入門するなど、幕末の重要人物とも深く関わっています。

文久元（1861）年に土佐勤王党が結成されると、真吉は同党の土佐西部における指導者となりました。しかし、党首の武市平平太とは一線を画し、過激路線に走らない姿勢を見せました。

同年、龍馬が勤王党の密命で長州に行った際、真吉は「坂竜飛騰」と日記に書きました。また、龍馬は暗殺される直前、仲間に「真吉に頼んで安全な宿を探してほしい」という内容の手紙を書いています。龍馬がいかに真吉を信頼していたかを示す史料といえるでしょう。

龍馬の生まれたまち記念館では、7/18〜8/23の間、真吉と龍馬を紹介する企画展を開催します。

（高知市立龍馬の生まれたまち記念館 森本琢磨）

特集 メモリアルイヤー

平成27（2015）年は、坂本龍馬生誕180年のほか、さまざまな高知ゆかりの人物の記念年にあたります。

寺田寅彦 没後80年



寺田寅彦肖像写真
提供：高知県立文学館

「天災は忘れたころにやってくる」の言葉で知られる物理学者で随筆家の寺田寅彦（1878〜1935）は、高知県出身の両親の間に生まれ、少年時代を高知のお城下で過ごしました。

寅彦の研究は、地震のほか、音響や波、火花など、さまざまな分野にわたります。当時の物理学は、相対性理論など、五感ではとらえられない世界も対象とする現代物理学への大きな転機を迎えていました。身近な不思議にも目をとめ、より大きな世界の謎を解き明かそうと努力していったように見えます。

一方で、寅彦は、漱石門下としてすぐれた随筆を発表しました。科学をやさしく解き明かす子供向けの文、亡き妻への思い、文明批判など、淡々とした筆致ながら深い印象を残すこれらの作品は、今読んでも、私たちに大きなヒントを与えてくれます。

今年、寅彦の没後80年です。高知県立文学館では、それを記念し、寅彦とその弟子に焦点を当てた「寺田寅彦と中谷吉郎展」を冬に開催します。ぜひこの機会に、寅彦の作品や研究に触れてみてください。

（高知県立文学館 永橋禎子）

正延正俊 没後20年



正延正俊《作品》1966年
個人蔵

画家・正延正俊は明治44（1911）年、須崎市に生まれ、高知県師範学校（現在の高知大学）で学びました。卒業後、宇佐小学校で図工の教員として勤務し、その後東京と神戸でも小学校の教員を務めながら絵画の制作を続けています。昭和24（1949）年、尖鋭的な画家でオーガナイザーでもあった吉原治良と出会い、5年後の昭和29（1954）年に吉原が立ち上げ、戦後日本を代表することになる前衛美術家グループ「具体美術協会」の創立メンバーとなり、嶋本昭三や白髪一雄ら他のメンバーが派手なパフォーマンスを繰り返す傍らで、正延はひたすら精緻な平面作品を描き続け、その作品世界を深化させていきました。平成7（1995）年、逝去。84歳でした。

高知県立美術館では正延の没後20年を記念し、生活の場であり、また活躍の舞台でもあった兵庫県西宮市の大谷記念美術館との共同企画として、「没後20年 具体の画家―正延正俊」展を開催します。初期から晩年までの代表作を一堂に集め、その知られざる画業を紹介します。

（高知県立美術館 奥野克仁）

四国霊場開創1200年記念

「空海の足音 四国へんろ展」 を見学して



展覧会 レポート



高知編 会場風景

平成26(2014)年は四国霊場開創1200年にあたる。それを記念する展覧会「空海の足音 四国へんろ展」が、四国4県連携事業として、同年の8月から11月まで、高知県立美術館、愛媛県美術館、香川県立ミュージアム、徳島県立博物館にて順次、開催された。これまで、「四国霊場」または「八十八カ所霊場」を取り上げた展覧会は数多く開催されているが、札所寺院の寺宝だけでなく、四国遍路が成立していくストーリーを合成した内容の展覧会は初めてだろう。

各会場の主な内容を紹介しながら、見学した際に気付いた点を述べたい。

高知編 (高知県立美術館)

四国遍路の形成と展開、そしてその背景について、考古資料や佛教美術の諸作品、資料等について探る内容。なかでも第三章と第四章の展示室では、土佐の霊場の宝物が一堂に展示されていたので、「あのお寺の資料、重文なんだね」、「この仏様、おじいちゃんの家がある所にあるよね」と子どもに話しかける母親の姿が会場内でよく見られた。遍路の歴史だけでなく、国分寺、土佐神社など地域に残る歴史遺産の紹介にもなった点が印象に残った。

愛媛編 (愛媛県美術館)

空海や山岳信仰、補陀落信仰、遊行・廻国する聖たち、四国遍路が大衆化していく過程など、遍路の歴史的展開や背景を取り上げた内容。愛媛大学日本史研究室と愛媛美術館との共同調査(以下「共同調査」)で明らかになった、第五十二番札所太山寺の文化財が初公開された。

第三章で愛媛県立歴史文化博物館の「四国遍路 歩いた描いた記録した展」(平成17年)をはじめとする遍路に関する企画展の調査・研究活動の実績が、第四章で「共同調査」の成果がそれぞれ反映されていた。企画展が調査・研究の裏付けで作られていることが前面に出ているものだった。

香川編 (香川県立ミュージアム)

弘法大師空海ゆかりの優品に加え、

各県の札所等に伝えられた貴重な文化財を紹介。

香川県立ミュージアムによる県内寺社総合調査などの研究成果を生かし、札所寺院等に伝えられた貴重な作品や、札所の歴史を物語る縁起、景観を描いた絵画作品なども紹介された。

会場入口を入ると、阿形・吽形の金剛力士像(善通寺蔵)が左右に展示されており、まさに遍路の世界の入口に立っているような演出効果があった。また、ケースの壁面には霊場の景観を描いた大きな絵図、第三章の展示室では赤い愛染明王像(本山寺)と黒い大威徳明王像(根香寺)といった大きな仏像が、ガラス越しではなく、間近で見られるなど、演出効果、カラフルさでは最も群を抜いていた。ミュージアムに関心が薄い人でも、本物の資料がもつ迫力を感じやすい展示だった。

キャプションは透明シールに印字され、展示ケースのガラス面に張られていた。この手法は、資料自体にまず目を向ける効果とともにケース内の資料展示スペースを確保できる反面、展示室とケース両方の照度を暗く設定した場合、文字が見えにくくなる点に留意する必要がある。

徳島編 (徳島県立博物館)

四国遍路の成立と展開について、実物資料によってたどることを主眼とし空海や大師信仰はもちろん、四国遍路の成立に深く関わる熊野信仰や修験道

に注目する。また、阿波の人々の信仰に深く関わる巡礼についても考察し、四国遍路を含む巡礼文化の世界に分け入った内容。

コーナー解説パネルとキャプションは、詳細な文章のため、資料そのものを鑑賞する手引きになるとともに、各章の設定および資料の展示図が伝わりやすくなるように作られていた。3つの展示室は、展示室の設備面と重文資料展示との兼ね合いで、導線確保に苦勞されたと思う。

まず、第1展示室は可動式エアタイトケースで、迷路のように区画してあった。次に、第2展示室はエントランスでつながっている徳島県立近代美術館の一室、第3展示室は徳島県立博物館の講演室を充てていた。そのため、目に付く所に矢印看板と人員を配置し、来館者を誘導していた。

4会場とも内容の充実した見応えのある展覧会だった。あれだけの展覧会を行うのに、準備期間が2年では、その苦勞は並大抵ではなかっただろう。にもかかわらず、実現できたのは、各館とも、遍路とそれに関連する諸分野の調査・研究活動、その成果としての企画展を継続的に行っていたからである。そしてその原動力となるのが学芸員の専門性であることを改めて感じた次第である。

(中岡慎太郎館 豊田満広)

シンポジウム

私たちの歴史を守るために
—地域史料・公文書・個人記録の保存と継承



こうちミュージアムネットワーク、公文書保存・利用研究会・特定非営利活動法人地域文化資源ネットワークの3団体主催による表記シンポジウムが、平成26（2014）年9月7日午後1時～4時30分、高知県立文学館で開催されました。

高知県内のさまざまな地域で、役場や個人が所有している地域史にかかわる貴重な資料が廃棄・散逸の危機に瀕している、という共通認識の下、この現状への対処法について議論することを目的として計画されたシンポジウムでした。基調講演「震災と文化のサステイナビリティ―知識循環型社会と記憶の拠点化―」に東京大学の吉見俊哉教授を迎え、「高知県立図書館の地域資料―今までとこれから―」上岡真士氏（高知県立図書館）、「こ

の地域資料保存に向けた取り組み」田井東浩平氏（土佐山内家宝物資料館）、「高知の近代史史料―歴史研究の現場から―」小幡壮氏（高知大学）、「歴史文規程」と徳島県立文書館「金原祐樹氏（徳島県立文書館）の報告で前半を構成、後半は各登壇者間で議論を深めた後、会場からの質問に答える時間も設けました。

県内の地域史料保存・公開施設では、その容量がほぼすべて限界に達しているという現状が確認され、その対策として、現在計画されているという県立公文書館に期待するしかないのではないかと、またそこには専門のアーキビストが不可欠であるというところに、一応の意見の集約を見ました。

教員からすすめられたという中学生のグループを含め、多様な年齢層にわたる参加者は100名を超え、マスコミからの注目度も高いシンポジウムとなりました。9月高知県議会で取り上げられています。

博物館（Museum）、文書館（Archives）図書館（Library）、大学（University）、高知で最初のMALUI連携の催しとしても記録されるべきシンポジウムでした。

詳細は、平成26（2014）年9月23日付高知新聞朝刊紙上で報告されていますのでご参照ください。

（特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク 中村茂生）

平成26年度の活動報告

- 【企画調整部会】
- ・総会 平成26年6月11日
 - ・幹事会 平成26年11月6日
 - 平成27年5月29日
- 【研修企画部会】
- ・情報交換会（6月11日）
 - ①「豊永郷民俗資料館について」 釣井龍秀（定福寺宝物館・豊永郷民俗資料館）
 - ②「吉井勇記念館の地域連携事業」 柳瀬美紀（香美市立吉井勇記念館）
 - ③「海洋堂かっぱ館について」 桐越浩一郎（株式会社奇想天外）
 - ④「石元泰博フォトセンターの活動と石元泰博展示室整備について」 影山千夏（高知県立美術館）
 - ・研修会
- ①シンポジウム（共催）（9月7日）
- 「私たちの歴史を守るために―地域資料・公文書・個人記録の保存と継承―」
- 会場：高知県立文学館
- ②施設見学会（3月23日）
- 見学施設：「海洋堂かっぱ館」「民具館・古溪城」「旧都築半平別邸」
- 【教育普及部会】
- ・「こうちミュージアムネットワーク専門的職員名簿2014」作成
 - ・ホームページの更新
 - ・高知市広報「あかるいまち」コラム『歴史万華鏡』リレー連載
- 【会報誌編集担当者会】
- ・会報誌13号編集
- 【新入会員】平成26年5月～平成27年4月
- ・津野町立図書館虎太郎館
 - ・室戸ジオパーク推進協議会
 - ・大方あかつき館（上林暁文学館）
 - ・日本ウミガメ協議会 室戸研究基地
 - ほか、個人会員2名

時の話題
国内最高齢
グラントシマウマ死去



去る平成26（2014）年10月15日にグラントシマウマのランが32歳6ヶ月で亡くなりました。当時日本最高齢のシマウマであり、日本の過去の飼育記録でも2番目の長寿を全うしました。

ランは昭和58（1983）年に宮崎市から高知市にやってきており、今では高知市立動物園時代を知る数少ない動物のひとつでした。9頭の仔をもうけ、最後の子供のキキと一緒に晩年を過ごしました。ランとキキ、オスシマウマのペレットの3頭が座つてのひなたぼっこは、アニマルランドのちょっとした名物だったので、もう見られなと思うときさみしいです。ランは人懐っこくブラッシングをねだって飼育員にちよつかいを出してくることもあり、このシマウマらしからぬ穏やかでおおらかな性格が、長生きできた秘訣でした。

おばあちゃんシマウマとして市民の皆様可愛されたランの一生は、幸せだったと思います。

（わんぱーくこうちアニマルランド 吉澤未来）

災害に備え、文化財の減災を考える

近年の災害経験を経て、地域の記憶

が残らなければ真の復興はないとの認識が広まった。被災文化財等の救出意義が認められ、また事前取り組みで減災できると判ってきた。受援（援助を受ける）計画の必要性も言われている。では、高知の現状はどうか？ 平成26（2014）年夏、こうちミュージアムネットワーク加盟施設と県下教育委員会に対し、アンケートをお願いした。

施設アンケート
回答数 19/48
教育委員会アンケート 19/37

まず問題は職員・利用者に対する備えだ。職場での被災への備え、職員行動マニュアルの作成を未検討の施設・自治体がそれぞれ1/4。被災後の指示体系の確立も未検討自治体が多い。利用者への備えに半数以上が避難訓練を実施しているが、浸水、道路寸断など、施設内に留まる方が安全な場合もあり、様々な想定が必要だ。

文化財等救出の現場では、事前の資料所在把握が迅速な救援に必要だと反省が出ているが、高知でも文化施設所蔵以外の地域資料の把握は不十分で、更に、所在調査の取り組みに「協力できかない」とする自治体もあった。理由は人員不足だ。全国でNPO法人が資料ネットを立ち上げているのも、自治体には頼れないという現状からだろ

う。

資料の救出では、収蔵資料に対する被災時応急処置を「全く知らない」施設や、修復などの相談先について、どうしたらよいかわからない施設もある。教育委員会側は、資料被災時の相談先があると11件が回答。それは県教委を指すようだ。「どうしたらよいかわからない」が6件。不明点を共有し、スキルアップする取組が望まれる。

文化財レスキュー事業は85%の施設が認知。だが、レスキューの基となるリストの整備や、人的な交流で事前減災に取り組むことに、積極的に「取り組みたい」と答えたのは6施設。他施設・他地域への援助活動には、何らかの協力が可能なのは4施設。施設に決定権がない、予算・人間的に難しいとしたところが半数以上だ。教育委員会では70%の認知度だが、「レスキュー事業は教育委員会の要請に応じて行われる」ことは6割が知らない。

資料台帳も半数の施設が不十分。教育委員会側も事前の減災活動へは「取り組みたいが予算・人間的に難しい」「担当課では決められない」が大半となり、救助を受ける体制すら不十分という高知の現状が浮き彫りとなった。

（奈良大学文化財歴史学科学学生

田所菜穂子）

窓の図書

かつての日本は「貿易立国」「産業立国」であり、それらが日本経済を牽引していた。それだけではたちゆかなくなつた現在、日本は「観光立国」など、諸ジャンルにおいて「○立国」を唱え、

新たな起爆剤を探している。しかし、日本には長い歴史から生まれた数々の文化財はもろろん、近年のマンガ・アニメなどにいたるまで、多くの文化資源がある。それらをアーカイブ化し、デジタルアーカイブによって世界へ発信することが日本の発展につながるというのが本書のいう「アーカイブ立国」の骨子である。

本書は、識者によって構成された文化戦略会議による「アーカイブ立国宣言」にはじまる。そして、その宣言を補完するという意味で鼎談、各分野からの現状報告と続く。宣言は、ヨーロッパの「ヨーロッパアナ（Europeana）」のようなデジタルアーカイブ構築を日本がおこなうための提言を4つ挙げている。いずれもが日本の問題点を指摘するものであるが、なかで

アーカイブ立国宣言 日本の文化資源を活かすために必要なこと

も著作権などの権利不明作品（いわゆる「孤児作品」）の適法かつ迅速な利用を可能とする法整備の実施という提言は、多くの人々にとつて共感できるものであろう。

それに続く鼎談は、「アーカイブとは文化そのものである」というテーマでおこなわれ、共有財産としての文化が持つ意味を問うものである。現状報告は、書籍やマンガ、映画、アニメ、地域文化、災害記録などのアーカイブ化の取組を各関係者が紹介している。ジャンルが多岐に渡っている中で、読者がそれぞれ興味のあるテーマをみつけることができよう。

日本の文化施設に関わる者としては、日常的に取り扱いながらも、ともすれば「日陰者」の扱いを受ける資料が日本を救う資源になるという主張に、何だか勇気をもらったような気がする次第である。

（高知市民図書館 徳平 晶）



「アーカイブ立国宣言」編集委員会編 2014年ポット出版刊 2,300円+税

名 称	〒	住 所	電 話	FAX	HP	休 ※は年末年始等特別休館日あり
安芸市立書道美術館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-1613	0887-34-1613	×	月 (祝日開館) ※
安芸市立歴史民俗資料館	784-0042	安芸市土居 953-イ	0887-34-3706	0887-34-3706	○	月 (祝日開館、東部博覧会中無休) ※
いの町紙の博物館	781-2103	吾川郡いの町幸町110-1	088-893-0886	088-893-0887	○	月 (祝日の場合は翌日)
いの町立吾北中央公民館	781-2401	吾川郡いの町上八川甲2010	088-867-2133	088-867-2773	×	日祝 ※
絵の町立	781-5310	高知市赤岡町 538	0887-57-7117	0887-57-7117	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
越知町立横倉山自然の森博物館	781-1303	高岡郡越知町越知丙 737-12	0889-26-1060	0889-26-0620	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
大方あかつき館 (上林暁文学館)	789-1931	幡多郡黒潮町入野 6931-3	0880-43-2110	0880-43-0222	○	木祝、月末金 ※
海洋堂かつば館	786-0322	高岡郡四万十町打井川 685	0880-29-3678	0880-29-3679	○	火 (祝日の場合は翌日)
海洋堂ホビー館四万十	786-0322	高岡郡四万十町打井川 1458-1	0880-29-3355	0880-29-3356	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
香美市立美術館	782-0041	香美市土佐山田町 262-1 プラザ八王子 2F	0887-53-5110	0887-53-5498	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
香美市立やなせたかし記念館	781-4212	香美市香北町美良布 1224-2	0887-59-2300	0887-57-1410	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
香美市立吉井勇記念館	781-4247	香美市香北町猪野々 514	0887-58-2220	0887-57-5995	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
高知県文化財団	781-8123	高知市高須 353-2 高知県立美術館内	088-866-8013	088-866-8008	○	土日祝 ※
高知県文化推進課	780-8570	高知市丸ノ内 1-2-20	088-823-9790	088-823-9296	○	土日祝 ※
高知県立足摺海洋館	787-0450	土佐清水市三崎字今芝 4032	0880-85-0635	0880-85-0650	○	12月第3木
高知県立坂本龍馬記念館	781-0262	高知市浦戸城山 830	088-841-0001	088-841-0015	○	無休
高知県立大学総合情報センター図書館	780-8515	高知市永国寺町 2-22	088-821-7129	088-821-7130	○	日祝、第1水 ※
高知県立図書館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-10	088-872-6307	088-872-6479	○	月祝、月末金 ※
高知県立のいち動物公園	781-5233	香南市野市町大谷 738	0887-56-3500	0887-56-3723	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
高知県立美術館	781-8123	高知市高須 353-2	088-866-8000	088-866-8008	○	※
高知県立文学館	780-0850	高知市丸ノ内 1-1-20	088-822-0231	088-871-7857	○	※
高知県立埋蔵文化財センター	783-0006	南国市篠原 1437-1	088-864-0671	088-864-1423	○	土日祝 (講座等開催日開館) ※
高知県立牧野植物園	781-8125	高知市五台山 4200-6	088-882-2601	088-882-8635	○	※
高知県立歴史民俗資料館	783-0044	南国市岡豊町八幡 1099-1	088-862-2211	088-862-2110	○	※
高知市生涯学習課	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぼーと 8F	088-821-9215	088-821-9217	○	日祝 ※
高知市春野郷土資料館	781-0304	高知市春野町西分 340	088-894-2805	088-894-2812	○	月祝・20日 (詳細はHP参照) ※
高知城	780-0850	高知市丸ノ内 1丁目 2-1	088-824-5701	088-824-9931	○	※
高知市民権・文化財課	780-8010	高知市棧橋通 4丁目 14-3	088-832-7277	088-831-3378	○	土日祝 ※
高知市立市民図書館	780-0870	高知市本町 5丁目 1-30	088-823-9451	088-823-9352	○	月祝・20日 ※
高知市立自由民権記念館	780-8010	高知市棧橋通 4丁目 14-3	088-831-3336	088-831-3306	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
高知市立龍馬の生まれたまち記念館	780-0901	高知市上町 2丁目 6-33	088-820-1115	088-822-1835	○	無休
香南市文化財センター	781-5423	香南市香我美町山北 1553-1	0887-54-2296	0887-54-2433	×	土日祝 (第4日曜は開館) ※
古溪城	786-0002	高岡郡四万十町見付 665	0880-22-1654		×	事前申込
子どものための民具体験館	780-0861	高知市升形 5-29	088-822-1764	088-822-1843	×	事前申込
金剛頂寺霊宝館	781-7108	室戸市元乙 523	0887-23-0026	0887-23-0726	×	事前申込、1/1~1/8・旧暦3/21開館
佐川町立佐川地質館	789-1201	高岡郡佐川町甲 360	0889-22-5500	0889-22-5511	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
佐川町立青山文庫	789-1201	高岡郡佐川町甲 1453-1	0889-22-0348	0889-20-9009	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
四国自然史科学研究センター	785-0023	須崎市下分乙 470-1 新荘公民館内	0889-40-0840	0889-40-0840	○	土日祝 ※
四万十市立郷土資料館	787-0000	四万十市中村字土居山 2356	0880-35-4096	0880-35-4096	○	※
四万十町立美術館	786-0004	高岡郡四万十町茂串町 9-20	0880-22-5000	0880-22-5001	×	月祝 ※
定福寺土佐豊永万葉植物園	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
定福寺宝物館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0301	0887-74-0302	○	※
ジョン万次郎資料館	787-0337	土佐清水市養老 303	0880-82-3155	0880-82-3156	○	無休
宿毛市立坂本図書館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-2654	0880-63-0155	○	月祝 ※
宿毛市立宿毛歴史館	788-0001	宿毛市中央 2-7-14	0880-63-5496	0880-63-1319	○	月 (祝日の場合は翌日) ※
須崎市立図書館	785-0013	須崎市西古市町 6-15	0889-42-2141	0889-42-2141	×	月祝 ※
創造広場アクトランド	781-5233	香南市野市町大谷 928-1	0887-56-1501	0887-56-1506	○	無休
竹林寺宝物館	781-8125	高知市五台山 3577	088-882-3085	088-884-9893	○	無休
津野町立図書館かわうそ館	785-0202	高岡郡津野町姫野々 433-2	0889-55-3001	0889-55-3555	○	火祝・第4金 ※
津野町立図書館虎太郎館	785-0501	高岡郡津野町力石 2870	0889-62-3555	0889-62-3555	○	火祝・第4金 ※
特定非営利活動法人 黒潮実感センター	788-0343	幡多郡大月町柏島 625	0880-62-8022	0880-62-8023	○	土日 (10~6月)・月 (7~9月)
特定非営利活動法人 高知子どもの図書館	780-0844	高知市永国寺町 6-16	088-820-8250	088-820-8251	○	火木
特定非営利活動法人 地域文化資源ネットワーク	781-5103	高知市大津乙 472-1-101	080-6721-3074		○	
土佐市立市民図書館	781-1101	土佐市高岡町甲 2177	088-852-3333	088-852-3484	○	月祝 ※
土佐山内家宝物資料館	780-0862	高知市鷹匠町 2丁目 4-26	088-873-0406	088-873-0406	○	展示室閉室 (詳細はHP参照)
豊永郷民俗資料館	789-0167	長岡郡大豊町粟生 158	0887-74-0305	0887-74-0302	○	再建のため休館中(平成27年11月まで)
中岡慎太郎館	781-6449	安芸郡北川村柏木 140	0887-38-8600	0887-38-8601	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
中村時計博物館	783-0011	南国市後免町 1丁目 5-26	088-864-2458	088-864-5249	○	無休
日本ウミガメ協議会 室戸研究基地	781-7101	室戸市室戸岬町 701	0887-22-1685	0887-22-1685	○	不定休
平和資料館草の家	780-0861	高知市升形 9-11	088-875-1275	088-821-0586	○	水日祝
民間非営利団体 高知文化財研究所	782-0016	香美市土佐山田町山田 1645	0887-52-0736	0887-52-0736	×	
室戸ジオパーク推進協議会	781-7101	室戸市室戸岬町 1810-2 室戸世界ジオパークセンター内	0887-22-5161	0887-23-1618	○	無休
横山隆一記念まんが館	780-8529	高知市九反田 2-1 かるぼーと内	088-883-5029	088-883-5049	○	月 (祝日開館) ※
龍河洞博物館	782-0005	香美市土佐山田町逆川 1434	0887-53-4376	0887-53-2145	○	無休
薫工ミュージアム	780-0074	高知市南金田 28	088-879-6800	088-879-6800	○	火 (祝日の場合は翌日) ※
わんぱーくこうちアニマルランド	780-8010	高知市棧橋通 6丁目 9-1	088-832-0189	088-834-0929	○	水 (祝日の場合は翌日) ※

こうちミュージアムネットワーク通信 第13号 平成27(2015)年5月29日発行 / 印刷:弘文印刷(株)

■編集 こうちミュージアムネットワーク会報誌編集担当者会
 (高知市立自由民権記念館/高知市民図書館/高知市立龍馬の生まれたまち記念館/高知県立文学館/高知県立歴史民俗資料館/横山隆一記念まんが館/わんぱーくこうちアニマルランド)
 ■事務局 (公財)土佐山内家宝物資料館 ■電話 088-873-0406 ■URL http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~museum/network/konet_home.html